

# 年男

## 超音波検査をもっと活かそう！

松尾クリニック 松尾 汎



亥年生まれの小生に、医師会から原稿依頼を戴いた。「新年の所感を・」とも思ったが、今まで医師会に余りお付き合いが無く、小生をご存知戴いて無いと思ひ、小生の専門分野のご紹介をさせて戴くことにした。

小生は、今日までに精神神経科、消化器、救急医療、放射線科、循環器など、多くの領域の診療に猛進してきた。この間の医療の進歩は目覚ましく、今や診断法も向上し、種々の治療法も進歩し、人生百年時代に突入した。この間、超音波検査（エコー）やCT検査、MRI検査などが可能となり、診断学は飛躍的に向上した。小生は、中でも侵襲

の無い「エコー」に関心を持ち、最近の30年ほどは、その普及と啓発に努めた。エコーは、腹部（肝胆脾、腎など）、心臓、体表（甲状腺や乳房など）と超音波の届く範囲の臓器を、リアルタイムに評価（動きも観察）することが可能である。ドプラ法を用いると「血流」も評価できることから、小生は、「超音波の血管疾患への応用」の啓発に努めた。頸動脈（糖尿病、脳梗塞など）、大動脈（瘤など）、腎動脈（高血圧など）、末梢動脈（動脈硬化症など）、下肢静脈（深部静脈血栓や静脈瘤）など、血管超音波検査」の臨床での有用性は広く識られる所となったが、検査者や評価法によって精度が異なっている。検査法としては信頼されな「この観点から、誰も何処でも、何時でもできるように」血管超

音波検査の標準的評価法も作成し、提案した。多くの検査者が育ったが、その育成に当たる人材が未だ不十分である。検査の質を高め、維持していくための体制も未だ不十分である。地域内の啓発を、医師会も是非率先して行って戴きたい。と言うのは、エコーは侵襲が無いので、実地医家も安全に実施でき、広く実臨床に活かせるからである。技師さん達もテクニクを研鑽しているが、さらに医師と連携すれば患者さんにより活かせるからである。そうなれば、技師さん達もより検査し甲斐がある筈である。勿論、他の画像診断や血液検査、病理診断なども有用であり、診断の端緒や確定診断には必須となった。医療連携の視点からは、それら診断法の有効活用が求められる。医院同士、医院と病院、病院同士の連携など、それらの有機的な繋がりを

もっと密にして、医療の質の向上に努めることが、我々医療者には常に求められている。その繋がりを構築するのも、医師会の役割のひとつであろう。今後の医師会の益々の活性化を期待している。